

井の頭池における水草生息環境保全の取組みについて

1. はじめに

井の頭池では、これまでの平成 25、27、29 年度 3 回のかいぼりにおいて、水草を餌とするソウギョやコイ等が駆除されるとともに、水草を切断するアメリカザリガニの駆除が継続して行われていること等を背景に、様々な種類の水草が再生している。一例として、平成 27 年度のかいぼりの後には、井の頭池を基準産地とし、環境省絶滅危惧 I 類である「イノカシラフラスコモ」が約 60 年ぶりに確認された。本稿では、29 年度のかいぼり以降、井の頭池における水草保全の取組みに焦点をおいて報告する。

2. 水草類の生育状況

井の頭池の水草は、3 回のかいぼり以降、確認できる種数が増加傾向にある。在来水草の種数をみると、平成 30 年度は 9 種であったが、令和 2 年度は、ナガエミクリ（環境省 NT）、カンガレイ等、ここ数年では確認されなかった種



写真-1 池全面に繁茂するツツイトモ

が見られるようになったことから、14 種類まで増加した。（図-1）なかでも、令和 2 年度頃より分布が拡大したツツイトモ（環境省 VU）は、池を覆うように大繁殖し、美しい景色から芸術家モネが描いた池のようであると評された。（写真-1）外来種については、平成 30 年度から令和 2 年度まで、おおむね横ばいとなっており、比較的良好な環境が保たれている。

また、池内で復活したトチカガミ（東京都 VU）、イノカシラフラスコモ

（環境省 CR+EN）、ツツイトモ（環境省 VU）、カン

ガレイ、ヒロハノエビモ等の水草については、種の保全のため、西部公園緑地事務所や武蔵野公園の一面に用意した水槽・バットにて管理・育成を行っている。生育が良好な水草は、平成 29 年度以降、井の頭池への再導入を試験的に実施している。

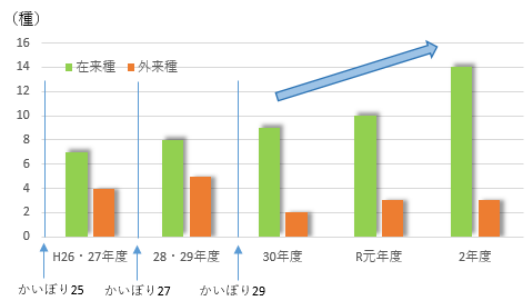


図-1 水草種数の推移

3. 生育環境維持・改善の取組み

かいぼりの成果として、ツツイトモの拡大等をはじめとした生物多様性に富んだ環境が構成され始める一方で、この環境の維持やさらなる良好な環境形成へ向けては、課題も出てきている。

第一に、外来種コカナダモの急速な拡大である。（写真-2）令和元年度にポート池で確認された後、徐々に広がりを見せ、現在では全池で確認されている。コカナダモは栄養繁殖が旺盛で、切れた茎や葉からも繁殖する。令和元年度から令和



写真-2 水面全面に広がるコカナダモ

3年度までの水草分布状況を見ると、コカナダモの被度が全池で増加していることがわかる。(図-2) このため、NPO法人・ボランティアと協働でコカナダモの刈り取り作業を、令和元年度に3回、令和2年度に12回、令和3年度に5回実施した。しかしながら、拡大の進行は早く、手作業で実施する範囲を超えてしまったこともあり、効果的な駆除方法に関する検討会を、学識経験者を交えて2回実施した。当初、かいぼりを再度実施する等の案が出たが、いずれ

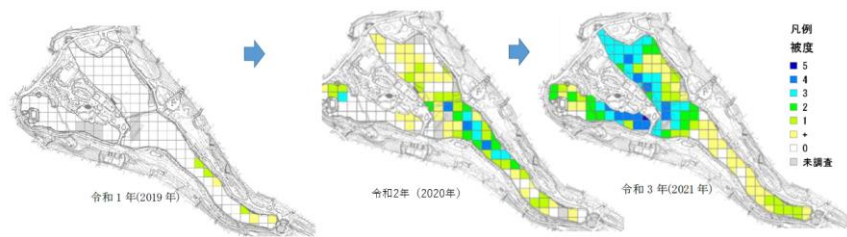


図-2 コカナダモの分布状況 (6月)

も大幅に費用がかかることが判明し現実的ではなかった。そこで、低コストでありながら個体数増加を抑制する方法を主眼におくことになり、令和3年度に水面の切れ藻を網で岸から引っ張り上げる方法を試行した。この方法で、切れ藻についてはある程度まとまった量が回収できたため、引き続き継続しつつ、切れ藻だけでなく、池底に根を張るコカナダモを藻狩り船で刈り取る等、さらなる効果的・効率的な回収方法を検討していく予定である。

第二に、再導入水草類が安定的に生育できる地点の選定が難しいことである。令和元年度には、育成が順調であるヒロハノエビモを、生物多様性を目指す浅場に移植した。しかしながら、再導入した30株は、水鳥の捕食により1カ月程度で消失してしまった。そこで、令和2年度では、水深が1m前後と深い地点、他水草の被度が低い地点、鳥の捕食を受けにくい地点、南向きの日当たりのよい地点を条件としてヒロハノエビモの移植を行った。上記条件の中でも、鳥の影響を受けにくい地点を選んだことがプラスに働いたとみられ、ヒロハノエビモ2鉢の開花・結実を確認



写真-3 開花・結実したヒロハノエビモ

することができた。(写真-3) 令和3年度では、地下水吹き出しの有無や日照条件が生育に与える影響を解析するため、各条件の異なる地点で生育比較を行っている。このような水草を移植する取り組みは、他の事例が十分になく、まずは試行データを蓄積することが必要である。データの結果、良好な生育地点の傾向が分かれば、池内における現存水草の維持管理方法の参考データとなるとともに、再導入した復活種が定着・群落拡大に至れば、長期的に自律回復していく可能性もある。このため、引き続き学識経験者の意見を踏まえ、鳥の影響を受けにくい地点等を主軸に、試験的な導入と実績データの蓄積、水質との関連性の解析を継続していく計画である。

4. おわりに

過去のかいぼりやザリガニ駆除等の活動が継続されているためか、井の頭池の変化に対する来園者の関心は強い。私がNPO団体とザリガニ駆除を行っていた際には、来園者から「最近増えた水草(コカナダモ)はなんですか?」と聞かれることがあった。また、かいぼりを含め在来種の保護をしていることに対して、感謝の旨を記した手紙をいただくこともあった。

このような来園者からの関心が強い井の頭池を良好に保っていくためには、常に変化する環境に合わせて、順応的に管理していくとともに、復活した種が池内で安定して生育できる手法の確立が必要である。今後も、コカナダモの大量発生等の予期せぬ変化が起こったとしても、状況を見極め、適切な対処をしていくとともに、試験データの蓄積・解析を継続することで、「多様な生物の貴重な生息・生育空間となる公園」を目指していきたい。